

2025年9月期 決算説明

中期経営計画（最終年度）

～ 事業計画及び成長可能性に関する事項 ～

（サマリー版）

株式会社 EduLab

2025年11月13日

社長に就任してからの「これまで」と「これから」について

2021年夏に惹起された会計問題に端を発し、2021年12月に社長に就任、それから約4年が経ちました。

最初の2年は「守り」（＝ガバナンス・内部統制）を固めながら、2023年12月に策定した中期経営計画（中計）を軸に、「守り」を完遂させるとともに「攻め」（＝ビジネス機会の創出・再生）に注力、今年度はその中計の最終年度になります。

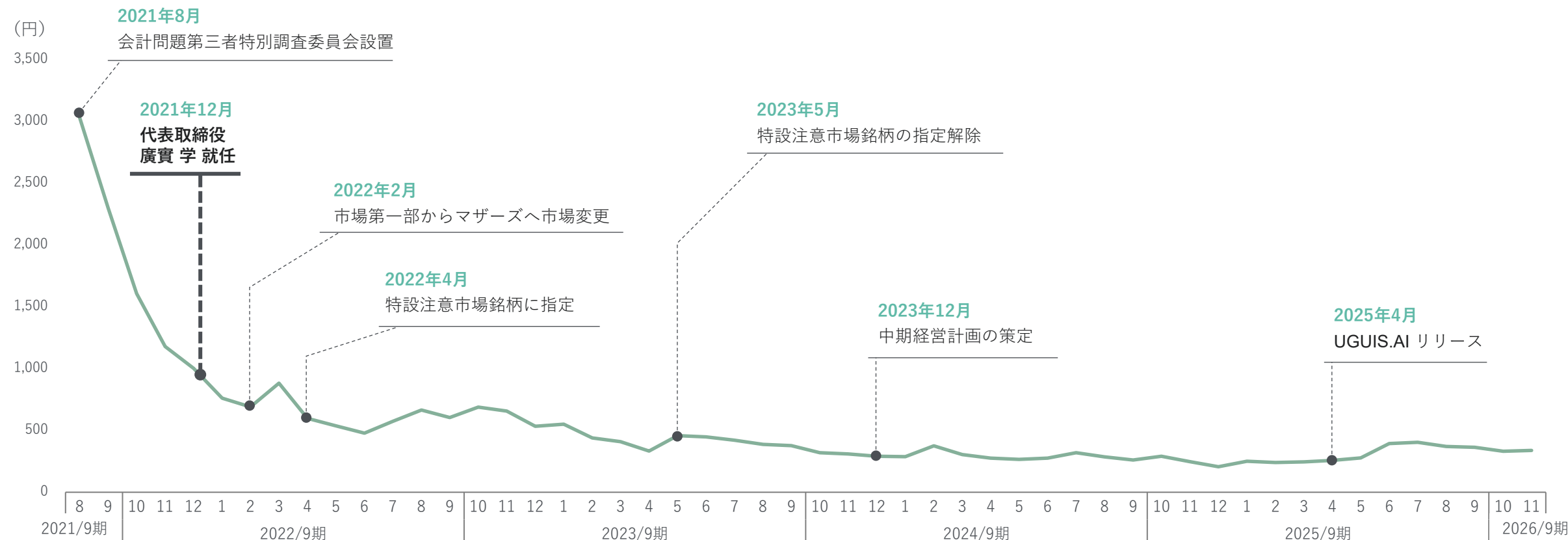
先日、期間約3か月の高校生を対象にしたインターンシップを実施しました。参加した総勢約50名の高校生たちを見ていると**日本の未来は明るい**と感じました。

ここに正に我々の存在意義があります。教育現場の課題を解決し、次世代のために、より良い社会を実現することだと。

そういう思いを持った当社グループの社員とともに、株主の皆様を始めとする様々なステークホルダーに一層評価される企業を目指してまいります。

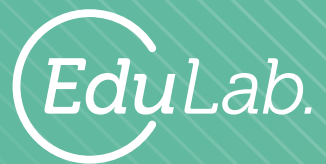
株式会社EduLab 代表取締役社長 廣實 学

■ 株価の推移



Agenda

01	2025年9月期 決算実績	3
02	2026年9月期 業績予想	12
03	成長戦略 - 中期経営計画の進捗状況 -	14



2025年9月期 決算実績

2025年9月期 連結損益計算書（PL）ハイライト



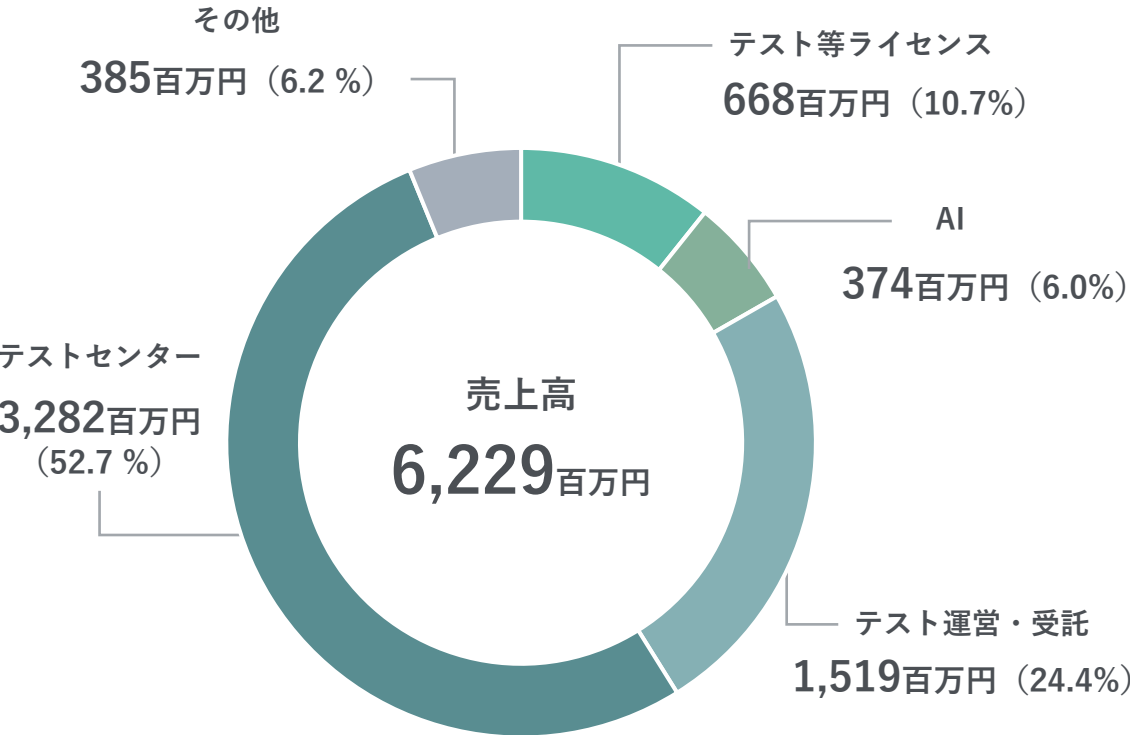
売上高は、テスト運営・受託事業の全国学力・学習状況調査が直接受注から間接受注になったことから、前年比で減少

利益面では、中期経営計画で掲げた事業構造改革やコスト構造改革により売上総利益が大幅に増加し、営業利益、経常利益、親会社に帰属する当期純利益の全利益で黒字化を達成

計画比では、前期以前から継続していた諸案件に対して149百万円を収益認識したことにより、売上高・営業利益が上振れ

一方、中国子会社清算結了に伴う整理損失費用・共用資産の減損損失計上等により特別損失292百万円を計上したこと、および法人税、非支配株主持分利益の影響で、純利益は16百万円に留まりましたが、計画を大きく上回り黒字化を達成

(単位：百万円)	2024年9月期 実績	2025年9月期		前年対比	計画対比
		計画 (2025年5月発表)	実績		
売上高	7,141	6,000	6,229	△12.8%	+3.8%
売上総利益	1,718	—	2,055	+19.6%	—
販売費及び一般管理費	2,044	—	1,663	△18.6%	—
営業利益	△325	230	391	黒字転換	+70.3%
経常利益	△492	160	450	黒字転換	+2.8倍
親会社株主に帰属する当期純利益	△1,273	△50	16	黒字転換	黒字転換

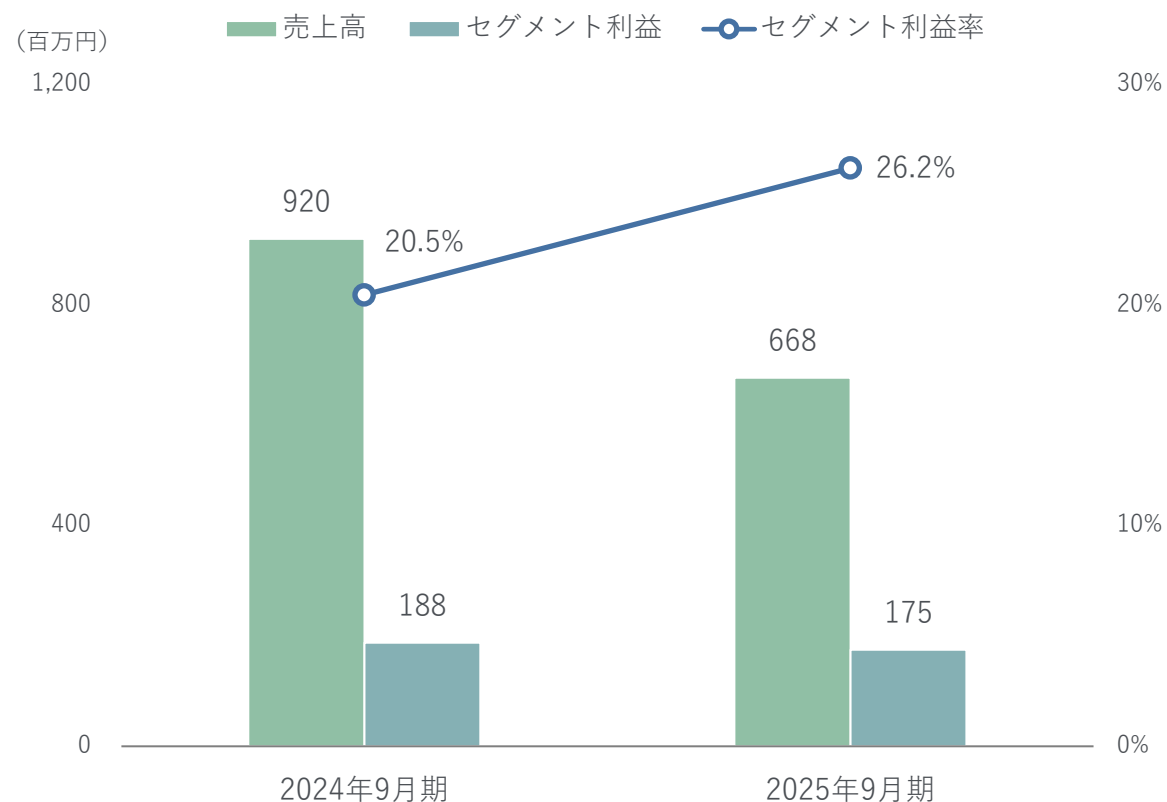


		2024年9月期	2025年9月期	前年対比
テスト等ライセンス	売上高	920	668	△27.4%
	セグメント利益	188	175	△7.2%
AI	売上高	147	374	+2.5倍
	セグメント利益	△44	184	黒字転換
テスト運営・受託	売上高	2,443	1,519	△37.8%
	セグメント利益	259	376	+45.1%
テストセンター	売上高	3,153	3,282	+4.1%
	セグメント利益	308	395	+28.4%
その他*	売上高	477	385	△19.3%
	セグメント利益	△86	31	黒字転換
全社費用		△950	△771	△178

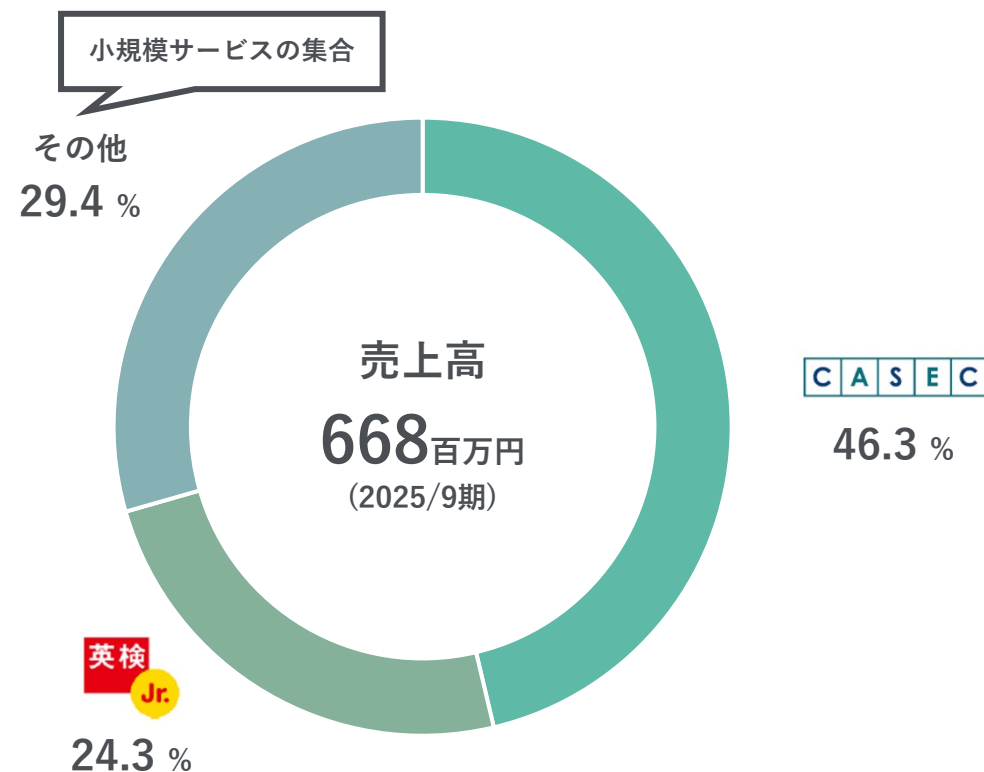
* 2024年3月に教育プラットフォーム事業から撤退。サービスを継続した広告事業を「その他事業」として計上

テスト等ライセンス事業は、オンライン英語テスト「CASEC」および英語スピーキングテストにかかわるライセンス収入が減少したこと、さらに一部サービスの終了に伴い減収減益。一方で、原価削減によりセグメント利益率は上昇

売上高・セグメント利益・利益率



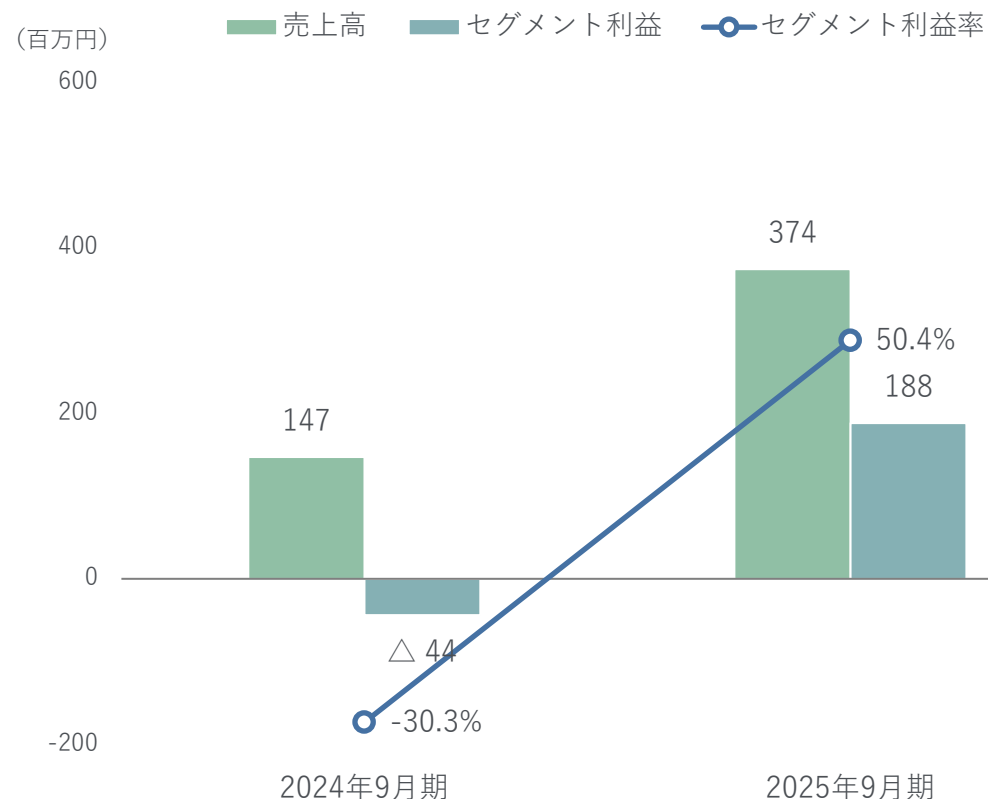
サービス別売上高構成比



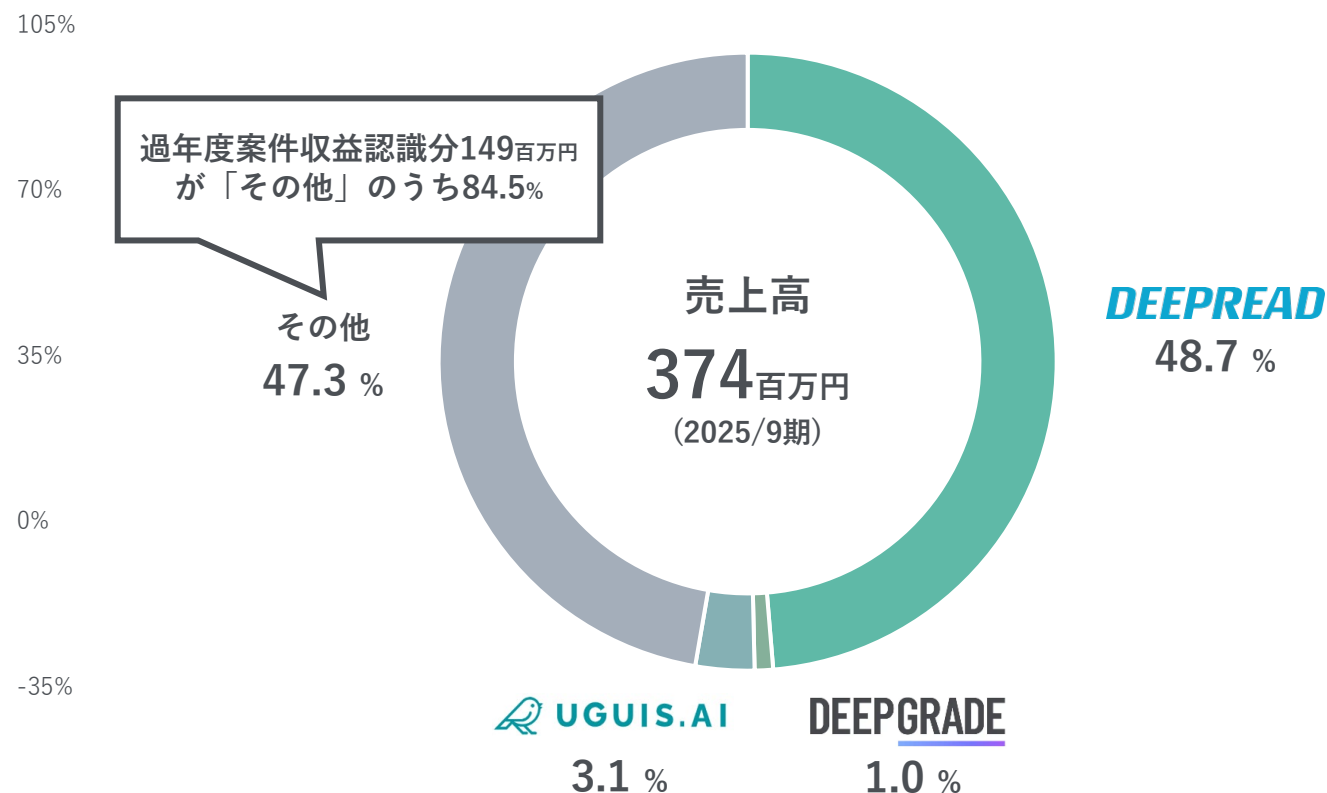
手書き文字認識「DEEP READ」ライセンス収入が安定して推移したことにより増収で黒字転換。また、前期以前から継続していた諸案件に対して149百万円を収益認識したことにより、売上が増加。これらによりセグメント利益は更に伸長、利益率も50.5%まで上昇

なお、「UGUIS.AI」を2025年4月に正式リリースしたものの、今期の業績への影響は軽微

売上高・セグメント利益・利益率



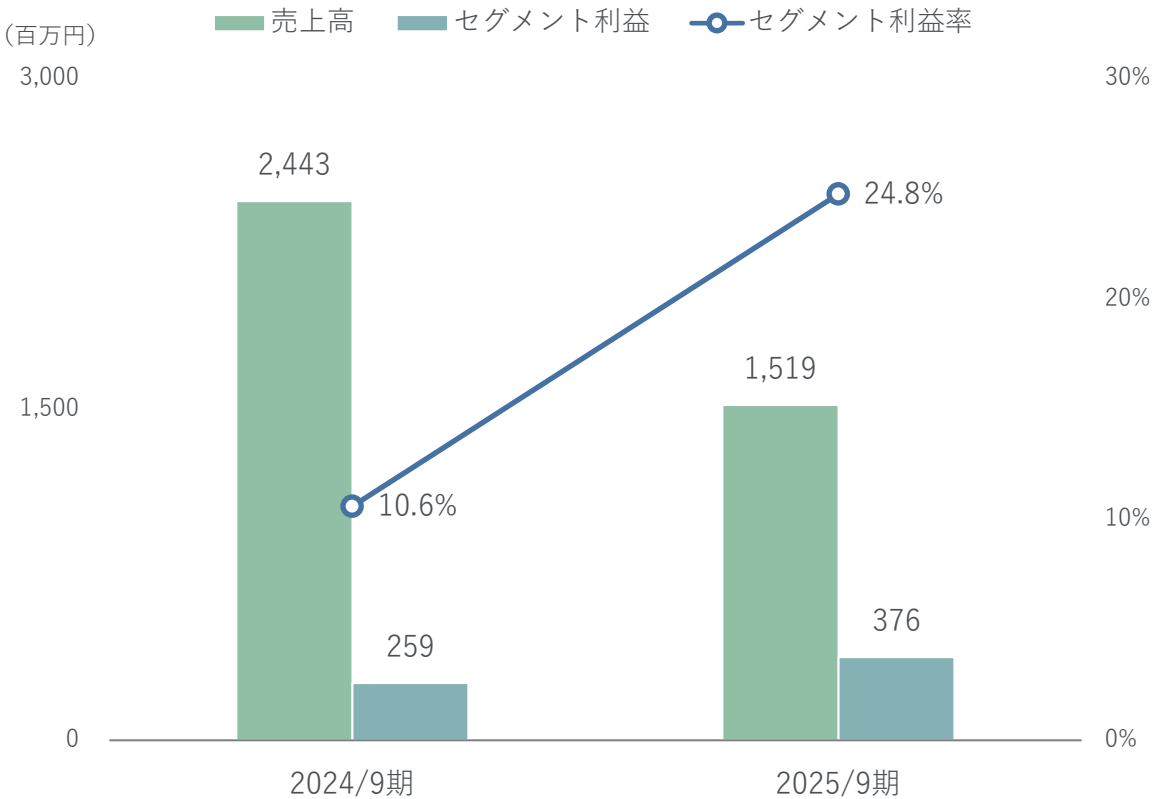
サービス別売上高構成比



2024年9月期に単独の委託機関として中学校事業を受託した文部科学省による全国学力・学習状況調査を、2025年9月期には再委託機関として小学校事業を受託するなどの受託形態の変化が主な要因として、売上高は前年比で減少

一方で、利益率の高い案件の受注や業務の内製化によるコスト削減等により、利益額、利益率ともに大幅に改善

売上高・セグメント利益・利益率

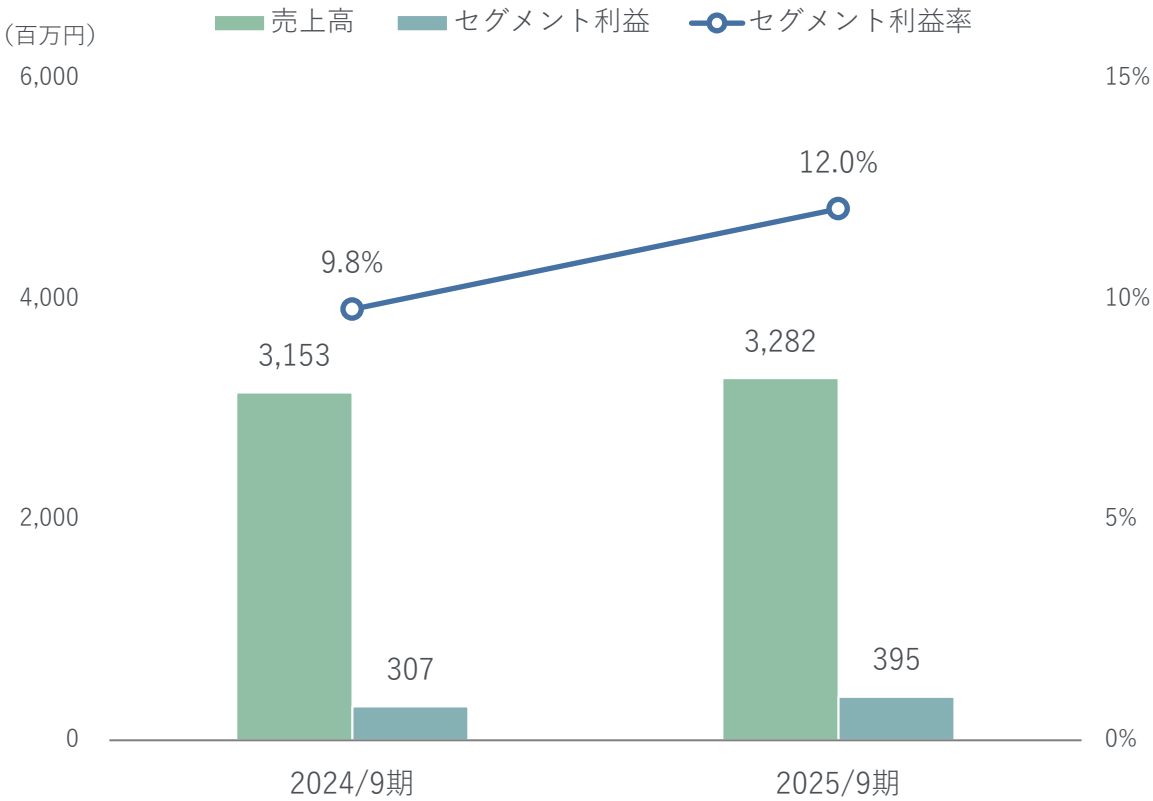


2025年9月期 主な受託案件

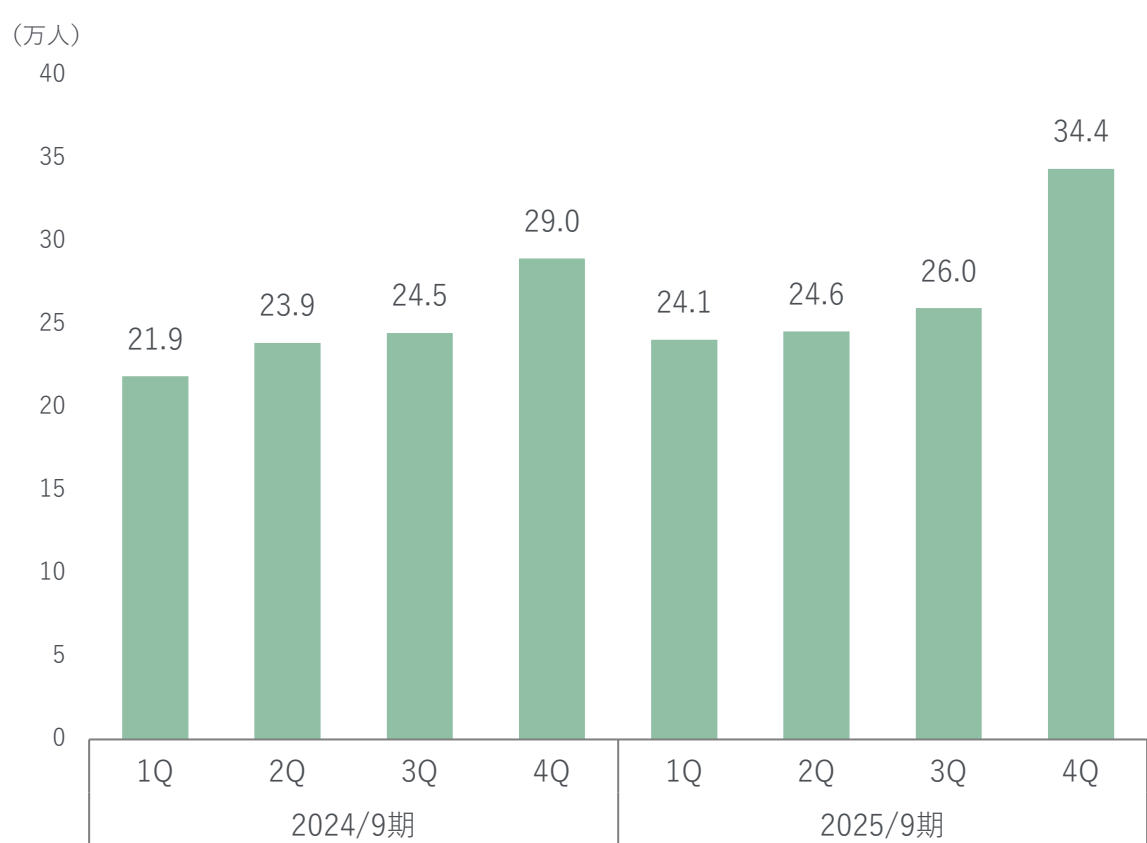
発注機関	案件名
文部科学省	令和7年度全国学力・学習状況調査を実施するための委託事業（小学校事業）
文部科学省	セキュアな環境における生成AIの校務利用の実証研究事業
スポーツ庁	令和7年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査
国立教育政策研究所	OECD-国際学力到達度調査（PISA） 2025年本調査支援業務（2025年度）一式

テストセンター利用者が安定して推移したことにより増収増益
運営体制・業務の最適化によりセグメント利益率も上昇

売上高・セグメント利益・利益率



テストセンター利用者の推移



2025年9月期 連結貸借対照表（BS）ハイライト



有利子負債の返済に伴い現預金が減少
テスト等ライセンス事業、AI事業のコンテンツ開発に伴うソフトウェアの増加により無形固定資産が増加
2025/9期末の自己資本比率は37.6% （計算式：（純資産－非支配株主持分等）／総資産）

資産の部	2024年9月末	2025年9月末	増減額
流動資産	2,981	2,818	△ 163
現預金	1,671	1,368	△ 284
売掛金	800	703	△ 97
固定資産	661	789	+128
有形固定資産	141	107	△33
無形固定資産	19	231	+212
資産合計	3,644	3,607	△36

負債・純資産の部	2024年9月末	2025年9月末	増減額
買掛金	185	206	+21
有利子負債	656	515	△ 140
負債 計	1,877	1,777	△99
純資産 計	1,767	1,830	+63
負債純資産 合計	3,644	3,607	△36

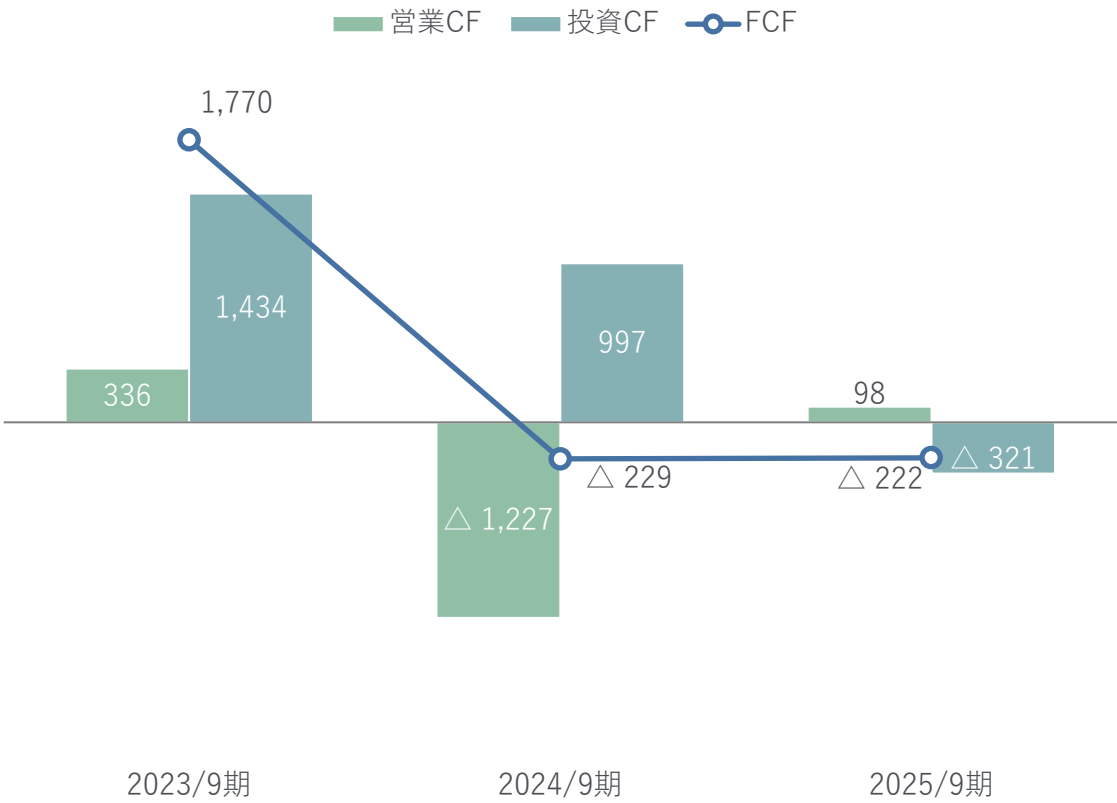
2025年9月期 キャッシュ・フローの状況

営業キャッシュ・フローは、98百万円となり黒字化。主な要因は、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益の黒字化

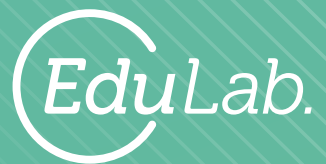
投資キャッシュ・フローの支出△321百万円の主な要因は、ソフトウェア開発投資226百万円、3 か月超の定期預金の預け入れ50百万円、敷金差入れ30百万円等

財務キャッシュ・フローの支出△119百万円の主な要因は、長期借入金の返済324百万円、短期借入金の純増額200百万円等

営業CF、投資CF、FCFの推移



	2023年9月期	2024年9月期	2025年9月期
営業活動による キャッシュ・フロー	336	△1,227	98
投資活動による キャッシュ・フロー	1,434	997	△321
財務活動による キャッシュ・フロー	△2,560	△900	△119
期末現金及び現金同等物	2,622	1,571	1,236
フリーキャッシュ・フロー (営業CF + 投資CF)	1,770	△229	△222



2026年9月期 業績予想

2026年9月期 業績予想



売上高は、文部科学省全国学力・学習状況調査を失注した影響で、前年対比、中計目標対比で減収を予想。その他の公共案件の受注が見込まれること、AI事業の英語ライティングサービス「UGUIS. AI」の拡販が見込まれることから、前年対比の減少幅は6.9%、予想対比の減少幅は10.8%にとどまる

利益面では、テスト運営・受託事業の前期に受注した収益性の高い案件が今期は減少するため、利益額および利益率ともに低下する見込み。海外子会社の整理の効果が今期から通年で寄与する他、引き続き原価削減、販売管理費削減の取り組みにより、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益の全利益で黒字を目指す

	2024年9月期 実績	2025年9月期 実績	2026年9月期 計画修正 (2024年11月発表)	2026年9月期 業績予想	前年対比	中計目標対比
売上高	7,141	6,229	6,500	5,800	△6.9%	△10.8%
売上総利益	1,718	2,055	1,900	1,680	△18.3%	11.6%
販売費及び一般管理費	2,044	1,663	1,750	1,600	△3.8%	△8.6%
営業利益	△325	391	150	80	△79.6%	△46.7%
経常利益	△492	450	100	20	△95.6%	△80%
親会社株主に帰属する当期純利益	△1,273	16	10	10	△39.8%	—

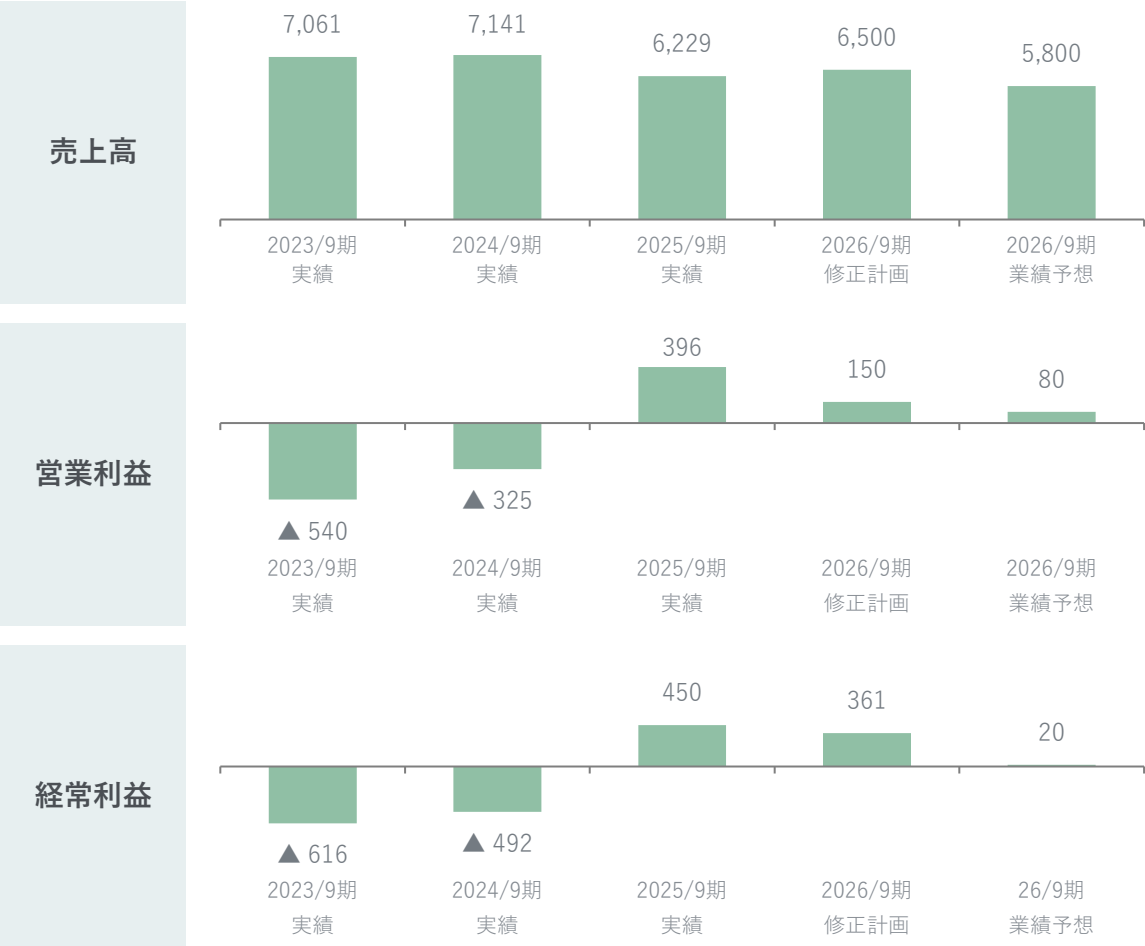


成長戦略

- 中期経営計画の進捗状況 -

経営目標

2025/9期 は営業利益・経常利益・純利益で黒字化を達成



全社戦略

3つの改革の断行

事業構造改革

コスト構造改革

組織体制・企業風土改革

事業別戦略

- テスト等
ライセンス事業
 - クロスセルによる自社サービスの売上拡大
 - 対応端末の拡張、UI/UXの改善等プロダクト/サービス品質向上
- テスト運営・
受託事業
 - AI技術を活用した業務効率化
 - 企画/コンサルティング案件の拡大
- テストセンター
事業
 - 拠点最適化による効率化
 - 委託拡充による受験者数の拡大
- AI事業
 - クロスセルによる文字認識、自動採点・添削サービスの売上拡大
 - 測定技術と組み合わせた独自AIサービスの展開

2023年12月8日開示「中期経営計画」

進捗状況

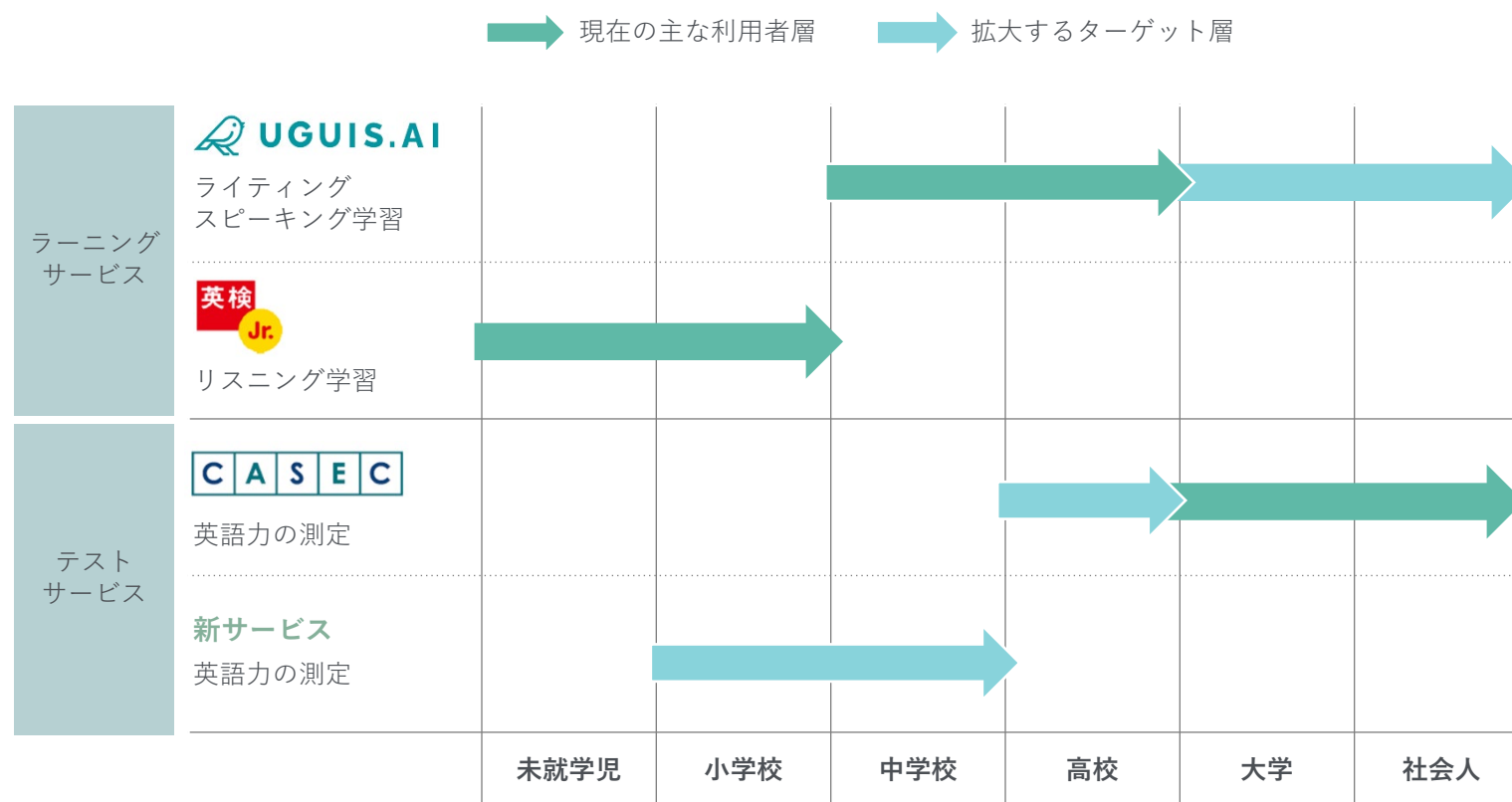
1 事業構造改革	高付加価値事業の拡大	● テスト等ライセンス事業：CASEC・英検Jr.は一定水準を維持。需要動向に対応し、品質・基盤強化を推進 ● テスト運営・受託事業：採算重視での案件選別により収益性を改善中。公共案件依存からの脱却は道半ば、民間案件拡大による安定成長を目指す
	成長事業の育成	● テストセンター事業：テストセンター利用者数が増加。拠点最適化と委託拡充で効率化と収益性を強化 ● AI事業：「UGUIS.AI」有償展開を2025年4月より開始。ユーザー拡大と機能強化が今後の成長の鍵
2 コスト構造改革	早期のコスト削減	● 海外子会社の清算・整理、および残存海外子会社との委受託の適正化によるコスト削減を実施 ● システム関連費用の大幅な削減を実現、定期的な見直しを継続中
	人員再配置	2024/9期までに完了済
3 組織体制・企業風土改革	組織体制の変更	● プロダクトアウトからマーケットインを意識した顧客軸に組織体制を変更（2023年10月） ● 柔軟な組織運営を実施し、部門間連携と事業推進力を強化中
	ガバナンス体制の強化	2024/9期までに完了済
	人事評価制度の再構築	● 人事評価制度をはじめ、さまざまな人事関連の新制度を確立。全社に運用の浸透を推進中

事業構造改革：英語ラーニングサービス・英語テストサービスのLTVの最大化

英語ラーニングサービス・英語テストサービスのターゲット層を拡大し、営業・PRを強化。新たに小・中学生向けの英語実力判定サービスもラインナップに追加し、拡販を推進。未就学児から高校、大学、社会人まで当社サービスをご利用いただける体制を構築。更に各サービスの機能拡充やシステム統合も計画

これらの施策によりラーニングサービス、テストサービスのLTVの最大化を目指す

3サービスのターゲットの拡大と新サービスの拡販



営業・PRの強化

- 各ターゲットに対応した複数の代理店を活用した営業の強化
- インサイドセールスの活用
- SEO対策の強化

機能拡充とシステム基盤の統合

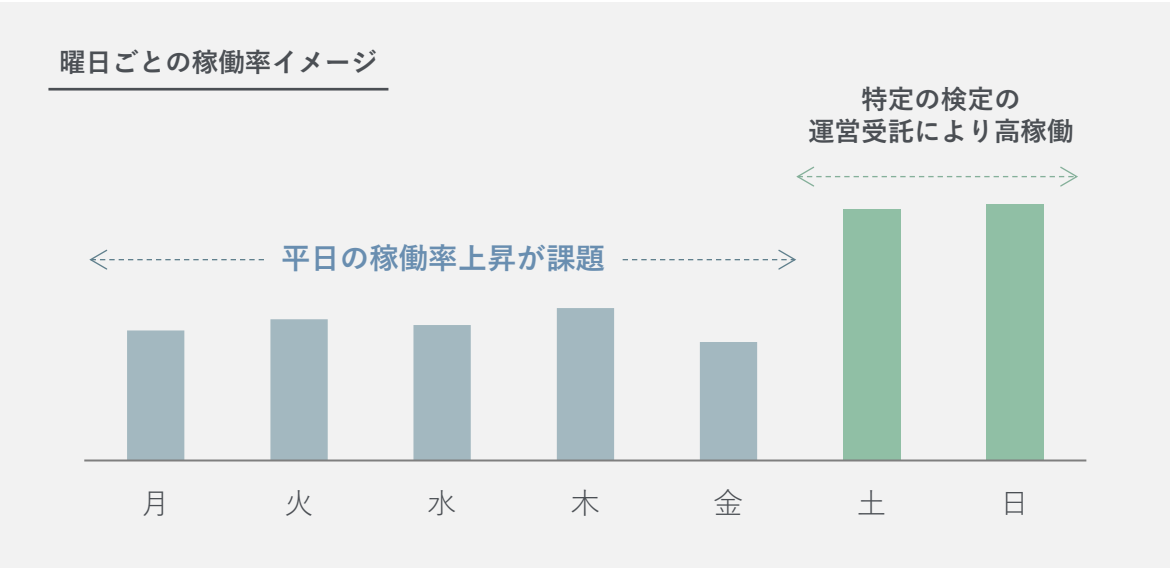
- 各サービスの機能の拡充
- 小学校～中学校を対象とした新サービスの拡販
- 新サービスを含めた4サービスのシステム基盤の統合を計画

LTVの最大化を目指す

事業構造改革：テストセンターの稼働率上昇による売上拡大

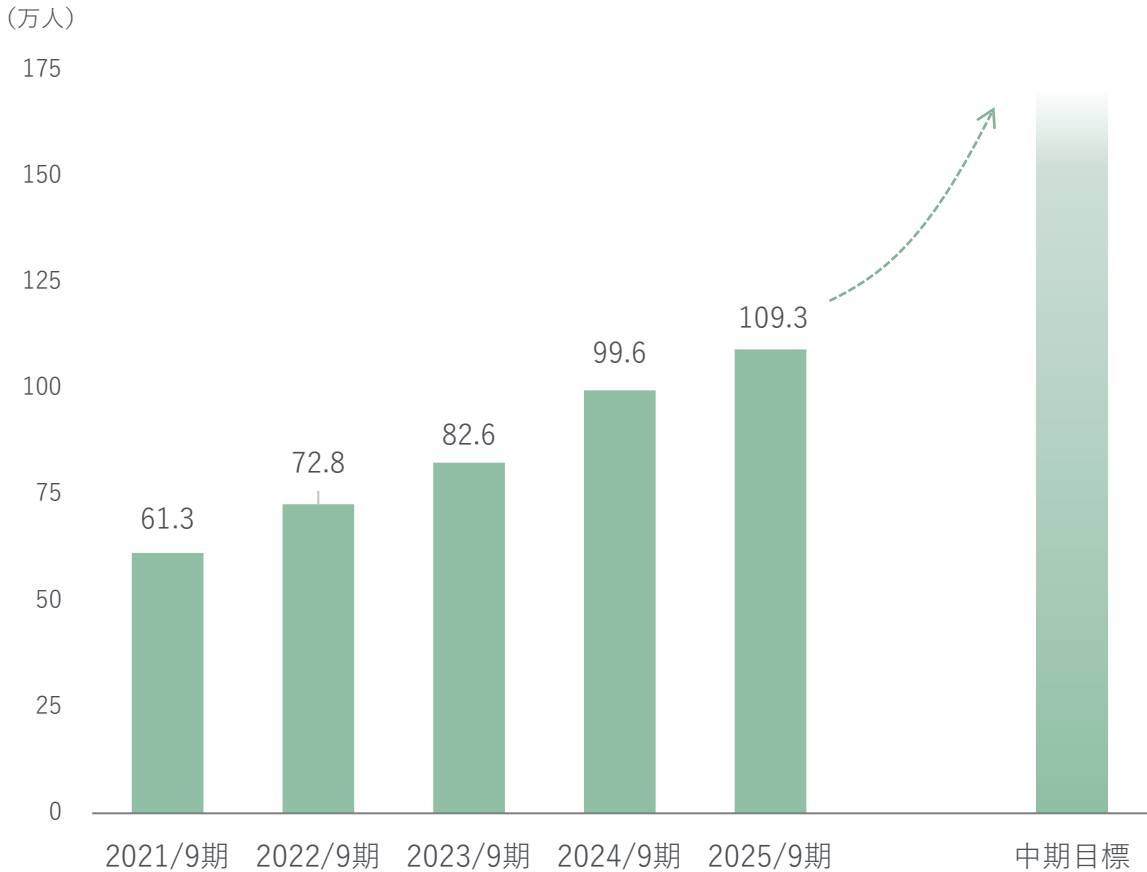
テストセンターは、土日は高稼働を維持しているものの平日の稼働率が低く、これを上げることが課題
 施策として、平日も実施している試験・検定の積極的な取り込みや、今後CBT化される試験・検定の獲得に注力
 国内最大級のキャパシティの最適化を図り、受験者数の拡大を目指す

■ テストセンター稼働率の上昇



- 平日も実施している試験・検定の積極的な取り込み
 例) 漢検、日商簿記検定、FP技能検定、秘書検定 等
- 今後CBT化される試験・検定への対応

■ テストセンター利用者数の推移



事業構造改革：テスト運営・受託事業の売上構成の変革と売上・利益の安定化

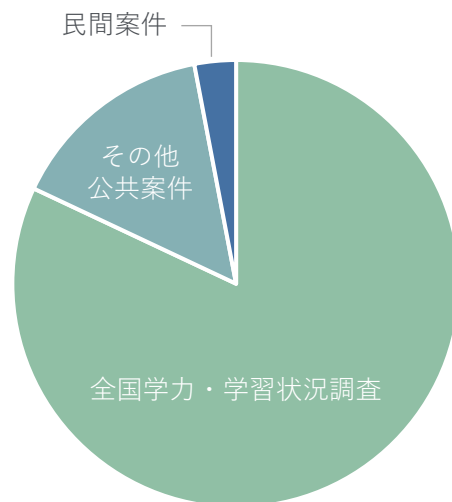
これまで全国学力・学習状況調査を中心に公共分野での実績を積み上げてきたが、今後はその知見を活かし、より多様な公共・民間領域への展開を加速

中期的には全国学力・学習状況調査に依存しない売上構成を目指し、その他の公共案件や民間案件の拡大を図る

長期的には、入札以外の民間案件を拡大し、売上・利益の安定化を目指す

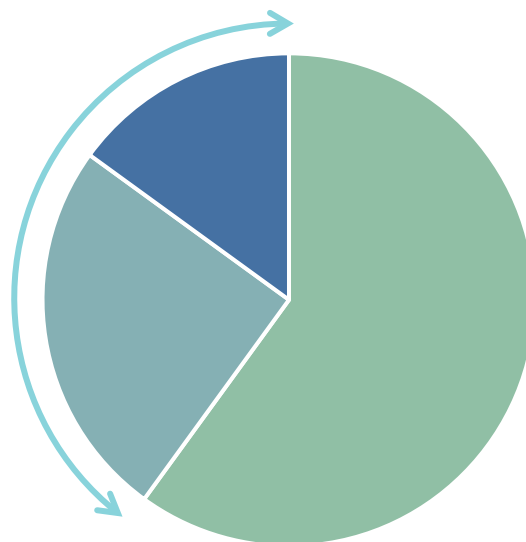
現在

全国学力・学習状況調査の比率が高い



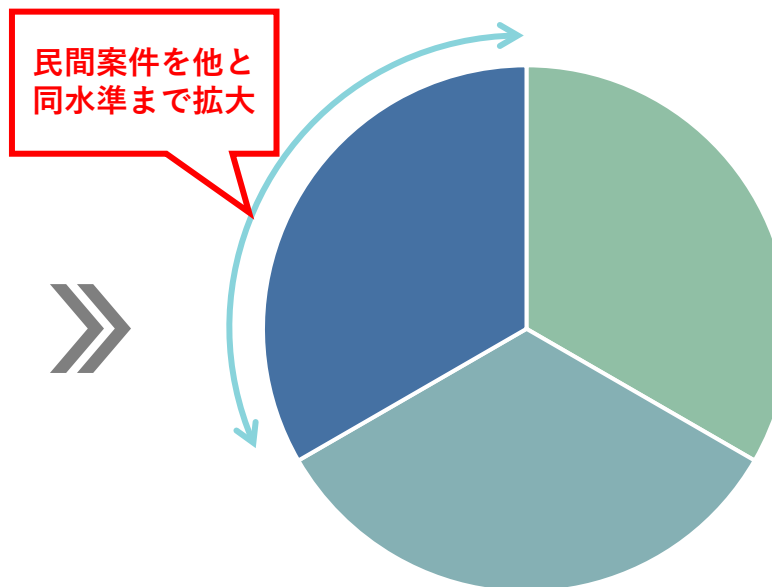
中期目標

その他公共案件・民間案件の入札領域を拡大し
売上比率を段階的に引き上げ
案件を精査し、採算の良い案件の獲得を目指す



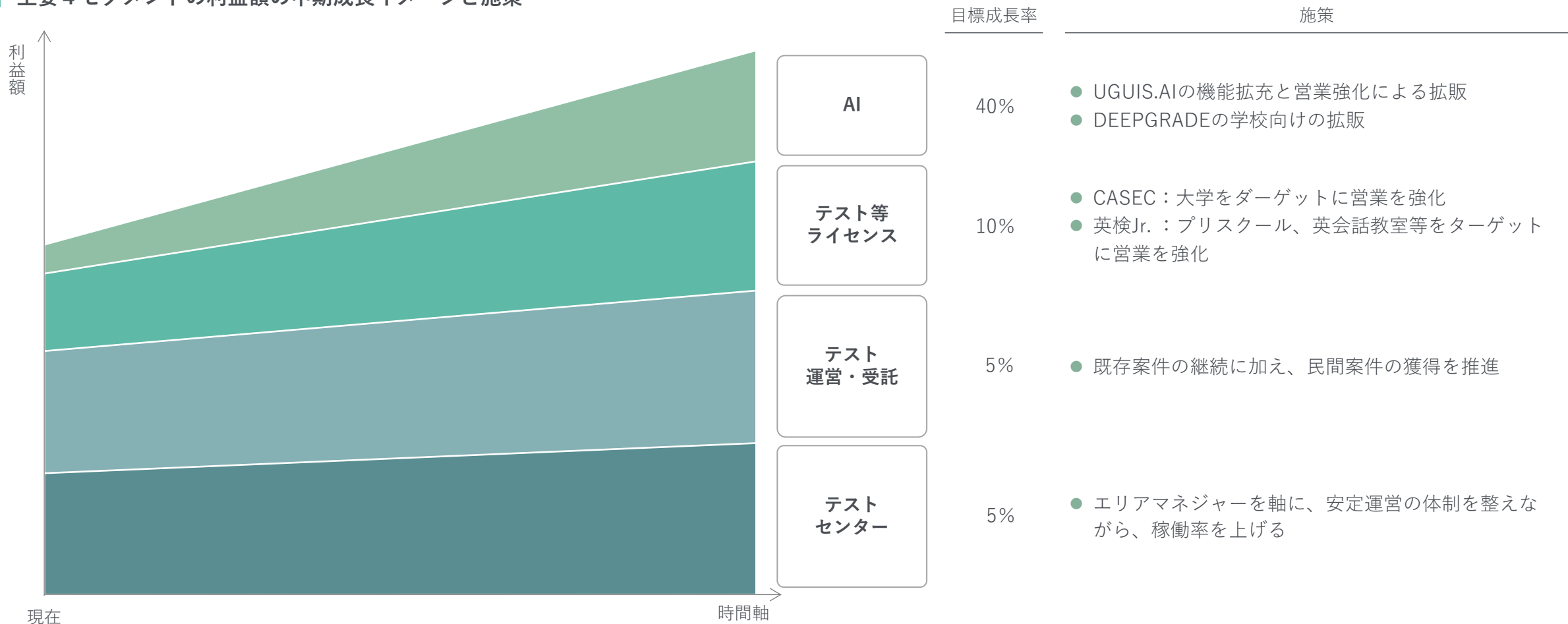
長期目標

採点技術やナレッジを活かせる
民間案件を拡大し売上の安定化を図る



AI事業、中でもUGUIS.AIが成長を牽引。テスト等ライセンス事業は学校向けにCASEC、英検Jr.の営業を強化し、利益成長率10%を目指す。テスト運営・受託事業、テストセンター事業は基盤事業として安定成長を見込む

■ 主要4セグメントの利益額の中期成長イメージと施策



- 本資料は、株式会社EduLabの業績等について、株式会社EduLabによる現時点における予定、推定、見込み又は予想に基づいた将来展望についても言及しております。
- これらの将来展望に関する表明の中には、様々なリスクや不確実性が内在します。既に知られたもしくは未だに知られていないリスク、不確実性その他の要因が、将来の展望に関する表明に含まれる内容と異なる結果を引き起こす可能性がございます。
- 株式会社EduLabの実際の将来における事業内容や業績等は、本資料に記載されている将来展望と異なる場合がございます。
- 本資料のアップデートにつきましては、2026年11月頃を目処に開示を行う予定です。

株式会社EduLab

東証グロース
4427